

ブロッコリー（平坦地夏まき）

| | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|---|---|---|---|---|-----|---|-----|----|-----------|----|-----------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
| 作 型 | 頂花蕾 | | | | | | | | | | | | |
| | 年内どり | | | | | | | | | | | | |
| 主な作業 | 頂花蕾収穫 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 播 種 | | 定 植 | | 追 肥 開 始 | | 頂 収 花 蕾 穫 |
| | | | | | | | | | | | 側 収 花 蕾 穫 | | |

技 術 体 系

1 作型の特徴

夏まき栽培は、ブロッコリーの基本的な作型であり、収穫期は秋から冬にかけてである。品種の使い分けで、収穫期の早晩が決定する。

(1) 年内どり品種

一般に早生～中早生種を用いる。

(2) 11月どり品種

中早生～中性種を用いる。

2 適応地域

平坦地域

3 栽培条件

(1) 温度

ブロッコリーの生育適温は、15～22℃で、耐寒性、耐暑性は強い方であるが、25℃以上や5℃以下になると、生育が抑制される。

花芽分化については、一定の苗齢に達した後に初めて低温に感応する植物体春化型で、花芽分化を促進する温度は品種の早晩性で異なる。

早晩性による花芽分化温度

| 早晩性 | 花芽分化温度 | 出 蕾 | 収穫 |
|-----|-----------|--------|------|
| 極早生 | 22℃以上でも分化 | 播種後75日 | 90日 |
| 早 生 | 22℃以下 | 85日 | 100日 |
| 中 性 | 17℃以下 | 100日 | 110日 |
| 中晩性 | 10～15℃以下 | 110日 | 150日 |

※早生は本葉7～8枚で感応する。

(2) 光

種子は好光性種子であり、また、長日条件で茎の伸長や肥大等の栄養生長が促進される。

(3) 土壌条件

幅広い土壌に適するが、耕土が深く、また、水田裏作で導入されることが多いため、地下水の低い圃場が望ましい。

アブラナ科野菜なので、ホウ素欠乏を起こしやすいので注意する。

4 経営目標

- | | |
|------------|------------|
| (1) 収 量 | 1.5 t/10a |
| (2) 投下労働時間 | 190 時間/10a |
| (3) 所得率 | 35 % |
| (4) 経営規模 | 60 a |

(家族労力2人の場合)

栽 培 技 術

1 品種と特性

「ピクセル」

播種後90日前後で収穫できる早生種。草勢は中程度で側枝も少なく栽培しやすい。花蕾は大型の方円形でしまりがよく、小粒・濃緑色で日持ちもよい。

「幸よし」

草勢は半開帳性で、草勢は強い。播種後95～100日前後で収穫できる中早生種。茎の太さは太く、空洞の発生は見られない。

「しげもり」

播種後110日前後で収穫できる中生種。草姿は立性で密書もでき、葉はやや大きい花蕾までの高さは低く倒状しにくい。

2 育苗

(1) 播種

年内どりの場合は7月下～8月中旬、年明けどりの場合は、8月下～9月中旬播種。

(2) 播種量 40ml / 10a

(3) 育苗方法

200穴プラグトレイ育苗とし、床土は専用床土を使用する。

(4) 育苗管理

高温期の育苗となるため、葉からの蒸散抑制を図るため寒冷紗で遮光するとともにトレイを地面より上げて通気を図る。

灌水は朝方行い、昼間葉のしおれが見られるようなら葉水を打つ程度とする。昼間の灌水量が多いと徒長や根痛みを起こすため、多くなりすぎないようにする。また、定植後の活着促進のため定植が近づいてきたら灌水量を減らして、苗の硬化を図る。

定植前日に液肥で灌水しておく。

3 本圃の準備

深耕し、定植20日前までには炭酸苦土石灰を全面に散布し、十分耕耘しておく(pH6.0～6.6)。畦は乾燥状態ではやや低く、湿潤状態では高畦にして、中央が少し高くなるようにする。

施肥量(頂花蕾のみ収穫) (kg/10a)

| | N | P ₂ O ₅ | K ₂ O | |
|----|----|-------------------------------|------------------|------------------|
| 基肥 | 15 | 35 | 15 | 完熟堆肥 2,000 kg |
| 追肥 | 15 | 0 | 15 | |
| 全量 | 30 | 35 | 30 | |

施肥量(側花蕾まで収穫) (kg/10a)

| | N | P ₂ O ₅ | K ₂ O | |
|----|----|-------------------------------|------------------|------------------|
| 基肥 | 15 | 35 | 15 | 完熟堆肥 2,000 kg |
| 追肥 | 20 | 0 | 20 | |
| 全量 | 35 | 35 | 35 | |

多肥栽培を行う品目に属し、苗の活着後、直ちに肥料が吸収できるようにしておく。

肥料吸収量は、定植後20日頃から急速に多くなり、出蕾期まで吸収量が上昇する。

4 定植

(1) 苗 令 本葉4～6枚

(2) 栽植様式 畦幅140～150cm

条間50～60cm

株間35～45cm、2条植え

早生種：3,500～4,000株/10a

中生種：3,000～3,500株/10a

側花蕾まで収穫する場合はやや疎植とする。

5 定植後の管理

(1) 追肥

年内どり

1回目：活着後、株元から15cm位のところに施し、軽く培土する。

2回目：定植後20日目に畦肩に施し、培土を行う。

年明けどり

1回目：活着後、株下から15cm位のところに施し、軽く培土する。

2回目：定植後20日目に畦肩に施し、培土を行う。

3回目：出蕾期に施す。

4回目：側花蕾を収穫する栽培では、頂花蕾収穫直後に施す。

6 収穫

(1) 頂花蕾の収穫

花蕾がやや緩み始める直前が収穫適期である。小花が一つでも開けば、その花蕾は過熟となる。